



▽飛行機的设计では、模型をつくり風洞試験での確認が不可欠。形を少し変える度にこの作業を繰り返す。その大部分をコンピューターに任せようとする研究が進んでいる。

▽写真は研究中の日米共同開発次期旅客機YX Xの主翼回りの立体的な圧力分布等圧線。赤い線が低圧力。通常飛行より少し上向きの状態を設定し、線が密で白くなっているのは衝撃波の発生を示す。

▽複雑な方程式を駆使して解く。航空宇

飛行機的设计



宙技術研究所の藤井孝蔵さんと東大大学院生の大林茂さんが、世界で初めて実機で計算するのに成功。「手法とプログラムの開

発が勝負」と、藤井さん。

【データ】機体速度マッハ0・八二、迎角四・六六度の条件で、主翼回りの空間の二十万六千七百六十三点について計算。写真はその中の主翼表面と、それに垂直な二断面の千六百五十点。富士通の新型スーパーコンピューターでも一・五時間かかった。処理速度も世界最高。